

三春わが街

■コミュニティだより

三春小6年 鈴木 夕貴(中町)

■発行 三春まちづくり協会

■編集 三春まちづくり協会調査広報特別委員会



15年間無休の例会 この日は町長が講師(堂山会館にて)



全県一斉老人奉仕の日 道路清掃のようす

- 1、お花見、いも煮会、例会の終りには、のど自慢で賑やかに。
- 2、健康は最高の宝、ゲートボール、町の歩こう会などに参加して健康保持に努める。
- 3、お花見、いも煮会、例会の終りには、のど自慢で賑やかに。

荒町を歩くと「十七会例会」のポスターを町角でみることが出来る。この「十七会」こそ、荒町という狭い地域をこえて知られ、県や町からも表彰を受けている三春町の誇るべき老人クラブなのだ。

「十七会」は、それまであった荒町老人クラブに、女性の荒町老人むつみ会を合体させ、昭和四十七年に第一回の例会を開き今日に至っている。

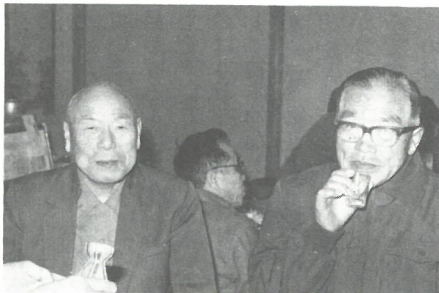
老人クラブが、歌、踊り旅行などレクリエーション

- 本位に終始するだけのものではないのかとの疑問から、明確な活動目標を打ち出し新しいスタートを切ったのだ。
- その四大活動目標とは
- 1、教養の向上
 - 2、健康の増進
 - 3、レクリエーション
 - 4、奉仕と地域交流
- 以上の目標達成のために実に綿密な企画計画を練って、様々な行事をひとつづつ実行している。更に具体的に活動を説明すると……
- 1、毎月十七日に例会をもち、その月の誕生者を祝い楽しく会食、その都度講師のお話をきいて教養を高める。
 - 2、健康は最高の宝、ゲートボール、町の歩こう会などに参加して健康保持に努める。
 - 3、お花見、いも煮会、例会の終りには、のど自慢で賑やかに。

荒町老人クラブ 荒町老人むつみ会

十七会

楽しみながら
美しい老人をめざす



春秋二回の研修旅行は見学とレクリエーションの場とする。

4、地域交流は、字委員、婦人会、中高年者との交流、例会、保育所園児訪問、盆踊り、神社や公園、道路の奉仕の清掃を行なう。九月の敬老月間には、喜寿を迎えた方全員に紅白の饅頭をさしあげて慰問する。

という具合でその内容の豊富なこと充実ぶりには驚かされる。

毎日十七日の例会は、発会より実に十五年に及び、しかも一度の休みもなく続けられている。例会について全員にたずねてみると、「毎月顔をあわせられ、こんな楽しいことはありません。」



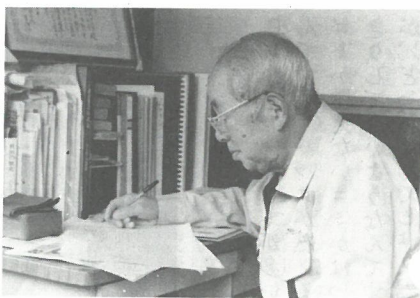
12月誕生の皆さん

会の行事、四大活動目標の意志徹底、家庭との連絡のために「十七会会報」が発行されている。すでに一四三号を数え、充実した内容が盛り込まれている。

「十七会」主催の盆踊りは会員が最も楽しみにする行事。三春盆踊保存会の太鼓や御囃子にあわせて踊り興ずる一夜は、生きる喜びを共感せずにはいられないという。

健康保持のためのゲートボール・スポーツ民謡部や俳句部などグループ活動も大変に活発だ。研修旅行の思い出話はずきることが多い。八月の竜巻院内での「十七会」主催の盆踊りは会員が最も楽しみにする行事。三春盆踊保存会の太鼓や御囃子にあわせて踊り興ずる一夜は、生きる喜びを共感せずにはいられないという。

会報編集は伴野会長の仕事



誕生祝の御礼に志納金を入れる福寿箱



- 容は会員から重宝がられている。今後の目標を伴野会長に尋ねてみた。
- (一) 荒町の高令者の全員が入会し共通の話題、悩みを話しあい、孤独な老人をなくしてゆきたい。
- (二) 若い人とも交流し、尊敬されるよう精進し、社会のため何か恩返しできるように働きたい。
- (三) 高令化が進んでも健康でボケることなく自分のことは自分で処理できるよう心掛けてゆきたい。
- (四) 老人いきがいセンターやシルバー人材センター、各老人クラブにも積極的に参加して、経験、技術、知識を生かして、心に生きがいを感じるように努力したい。
- 地域の協力を得ながら、「手づくりの運営」をモットーとして活動する荒町の「十七会」の皆さんに、惜しみなく拍手、拍手。今後も老人クラブの二本として爽やかな活動を続けられることでしょう。



まちづくり座談会

集
ゴミは何でも知っている！

特
我がまちのゴミ・ニ・デー

調査広報特別委員会

ゴミ集収の現場

今回の座談会は、三春町でも大変大きな問題となっている「ゴミの問題」について、各字から一名ずつ合計七名の方々に、お集りいただき、実際にゴミ集収の現場と、清掃センターを見学していただいた結果をもとに、三春町のゴミの問題についてお話し合いをしていただきました。

座談会出席者

- | | |
|---------|-----|
| 小山 美智子 | 大町 |
| 佐藤 アイ子 | 新町 |
| 谷口 トシ子 | 北町 |
| 田部 敬子 | 荒町 |
| 遠藤 喜美子 | 中町 |
| 佐久間 カツ子 | 八幡町 |
| 佐久間 善子 | 大町 |
| 環境特別委員会 | |
| 佐藤 幸三 | 委員長 |
| 滝本 尽意 | 委員 |



- | | |
|---------|----|
| 中村 利孝 | 委員 |
| 佐藤 弘 | 委員 |
| 佐藤 和之 | 委員 |
| 役場保健環境課 | |
| 工藤 浩之 | |

H 最初にゴミ集収に随行しての感想と意見をお願いします。

A 今日は、大変勉強になりました。そして、ショックを受けました。関心がなかったわけではないと自覚していましたが、ゴミの捨て方をもう一度我家に帰って、一家全員で工夫したいと思っています。

B 今日は燃えるゴミの日だったのに、燃えないゴミも大部入っていたようでしたので、自分でもこれから気をつけたいと思います。

C ゴミを袋に入れて捨てるけれども、袋の口をしめないものもあつたようなので、きちんとしめないといけないと思います。

C 燃えるもの燃えないものの分別をもう少し考えていかないといけないと思います。それから箱類などは、折りたたんできちんと出せば、もう少し荷物にならないんじゃないかと思いました。

D 台所から出るゴミ、残飯に水分が多くて、道

路がぐちゃぐちゃになるほどなので、きちんと出しての方がいいですね。

E 今まで自分が無造作に出していたことを反省しました。近所で集積所に残ったゴミを拾ったり、掃除したりしてくれる人がいるのに気づいて、それからはゴミの出し方にも気をつける様にはなつたんですけど。

F ゴミを集める人の身になって出さなければいけません。現場を見てそういう気持ちで、まだ不足していることを感じましたね。

G ゴミの置き方も、道路にはみ出してたり乱雑なもので（もつと）気をつけられ）見た目など、集積所のイメージも変ってくるんじゃないかと思いました。

H 初めに集収車のあとをついて歩いたわけですが、袋から飛び出したゴミの水などが、服にかかったりするのを目のあたりにすると

やはりゴミ集収の作業は大変なんだなと思いましたね。それから私も、ゴミを拾っているボランティアの方を見かけるんですが、各町にもそういう人がいるというのはいずれのことですね。

I 初歩的なことなんです。が、ゴミの正しい区分の仕方が、まだまだ不徹底の面があるんじゃないかと思うんです。今日も燃えるゴミの日なのに集収車の中で缶の音がしたり、燃える状況を見ても、燃えないゴミが大部混入しているということを感じました。

A 役場の方からの説明でもあつたんですが、ゴミをなるべく袋いっぱいに入れて出してもらいたいということだったんですが、大部小袋で出ているのが多かつたんですね。そうすると集収する方が、時間的なロスが出るんじゃないかと思ひました。もうひとつは、丈六の方なんですけど、道路が狭いので縦に長く出していたですね。そうしますと、やはり車に積み込むのに時間がかかると思ひます。だから集積場所を確保したいんじゃないかと思ひます。

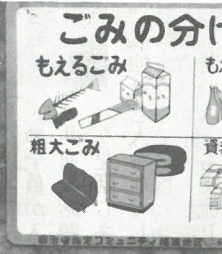


ゴミの区分

B 今バックのゴミが多いんですが、バックが燃えるゴミか燃えないゴミかはつきりしてないようなんですが、どっちなんですか。

燃えるゴミと燃えないゴミ

F 出す時の注意も必要だと思ひますが、買う段階でバック商品をさけるなどの工夫があれば出るゴミ



きょうは燃えるゴミです。



H さっきのお話ですとバックなどは燃えないゴミだからいけないと言っているが燃えないゴミを燃えるゴミの日に使っているという事は、おかしいということになりますよね。

G 燃えるゴミの日にも燃えないゴミのはずのビニール袋を使っているという事なんです。こういう袋もどんな風に考えているのかということですね。第一番にそれが問題だと思ひます。

A ビニール袋は全部燃えるゴミだと思ひていたんですが？

F 私もそう思ひていたんですが、袋にちゃんと不燃物と書いてある店もあるんです。

I 大部良心的ですね。その辺どうなんでしょうか。

J 今の町の苦しい所そのままで思ひますが、矛盾してゐるんですね。どうしてそういうことになっているのかというと、実は燃えるゴミを紙袋に、燃えないゴミをビニール袋にということとで検討したこともありましたが、問題は経済的な理由なんです。燃えるゴミ用の紙袋が当時一枚十四〜十五円したんです。そこで燃えるゴミ用に黒い紙袋にしてまとめて買えば、一枚十円



前後になるので袋を統一しようという話もしたんですが、かなり反発がありました。先程の不純物の話で、ビニールを入れていけない金に何かの間違いで入ってくるパーセントが、三春町では三割位と見ているんです。その程度ならこれくらい釜という事で設計してあるので、ゴミを入れるビニール袋はその三割に入ってしまう、多分大きな影響はないんじゃないかという判断で今までのところ来ているわけなんです。ですから、本当にきちんとするのであれば、袋まで分けるべきなんです。経済的な理由でなかなか出来ないという事です。有料の袋となりますと、町でお金を出して欲しいということになりますので、三春町四千七百世帯のご家庭に一枚十円のもの配るとなると、なかなか大変なわけで、現状のようになっています。

B 不純物の割合が三割という事は、三〇%ですから多いですね。
J ええ、ゴミ質検査というのを二ヶ月に一回やるんですが、その割合を見ても、残飯は割に少なく二割前後なんです。一番多いのは、何とて

A 最近では多くなってきたんです。一、二年前は新聞雑誌はそれほど出て来なかったわけなんです。これは、紙交換などが来たらもうね、今はそんなに来

廃品回収と ゴミの量

紙類で、三割越えています。紙、ビニール、厨芥（残飯類）の三つで九割位、その次に木、竹、わら類で後は不燃物、その他となっています。



ないですね。利益が安いので営業が成り立っていないかなって。だから私達は、収集の際ある程度まとめて出しているものについて、別に車の上に載せて運んでいるわけなんです。

G なるほどね、昔のように集めるということがなくなってきたわけね。その為に一般のゴミと一緒に出す。しかしやはり、生かせる物は生かして使うという気持ちがある、これからは誰もが身につけてゆかねばならないと思います。同じことの繰り返しになってしまっていますね。

F 中町でも二ヶ月に一回婦人会の方でやっているわけなんです。二年位前はね、だいたい九千から一万円位出てたんです。

ところが最近では、資源ゴミの値段も下ったせいもあるけど、七月にやった時には、回収するの二日間かけてそれでも四千円弱にしかならなかったんです。やはり出す量も減ってきているのは事実ですね。

実際の 集収の問題



E 集収して下さっている立場から聞きたいんですが、燃えるゴミと燃えないゴミの出し方の良い点、悪い点について聞かせて下さい。
K 燃えるゴミについては、一番扱いやすいのは紙袋ですね、天気の良い日はかま

A 私もうしたのですが

D そういう場合、粗大ゴミを残されると環境が悪くなるんです。まして誰が出したかわからない。そういう時は役場に連絡すれば処理してくれるのでしょ

K 大きな基準がありまして、持たせても底が抜けちゃうんです。それと口が締まってない物が困ります。燃えないゴミについては、重さ、大きさですね、特に大きいのは粗大ゴミになるんですが、普通の日にだされてることがあります。

C 燃えないゴミの時に粗大ゴミが出された時はどうしていますか。
G そういう不法な置き捨てをする人は車で来て夜置いていくんですよ。中町の場合は二、三ヶ所置かれる場所が決まっているんです。例えば、桐屋さんの向いやレックサイドの向いですが、そこは、そういう不法者の置きやすい場所なんです。困っているんですが、それで役場にお願ひして持っていくもったことが何回かあるんですが、一番困ったのは豊ですね。

A 次に集める日まで出ています。粗大ゴミは収集は年二回でしょう。
I 亀井もかなり大量にゴミが捨てられてますね。収集日でない日にです。

C 郡山ではそういう場合、中を開けたりして誰が捨てたかを徹底的に追求して電話をして取りにこさせるらしいです。ただテレビとかの場合は分りませんけど、ね。
I 私もゴミ捨て場を廻って見た時に大きな箱を見つけたので持ち上げてみたら一人では持ち上がらない。それで中を開けたら本がぎっしり入っていました。名前が書いてあるのではないかと、思い捜したところ書いてあったのでその人に連絡

H 中町でそういうケースでテレビが置いてありまして、御旗町もあります。
C そうした場合はどうしますか、何日位出てますか。
A 次には集める日まで出ています。粗大ゴミは収集は年二回でしょう。

H 中町はそういう粗大ゴミを捨てていく人がいるようなんですが、他の町はどうですか。
E 御旗町もあります。

なくならないんですね。とこか遠くの人が持ってくるんじゃないかと思うんです。それで私の家で保管しておいて粗大ゴミの日に出しました。

B 燃えるゴミ、燃えないゴミ、粗大ゴミの区別を町民の皆さんにしっかり覚え

E 私の家でも電池だけ別な袋に入れてあるんですけど、そういう特別な物を集める日があってもいいと思うんです。
J 今は年二回粗大ゴミを集める日に一緒に集めてるだけですが、まだPRが足りないの量が少ないですね。
D 燃却場でも分けて燃やしているんですか。
J 電池専用のポリエチレン製のドラム缶に保管してあります。

G 燃えるゴミ、燃えないゴミ、粗大ゴミの区別を町民の皆さんにしっかり覚え

B そういう教育は主婦はもちろんですけど子供も大きい力を持つてくると思うんです。我家では電池を捨てること徹底したんです。けど、それは長男が小学校の時に学校の先生が電池が燃えた時は有毒ガスが出るということを教えて下さったおかげで、それでお母さん電池は恐いんだから別な所へ捨てようねということ。我家では五才の子供にいたるまで電池は別な所へ捨ててます。私も恥かしいですけどそれは子供に教わったことなんです。

して「自分が持てないような物は運ぶ人も持てないのだから」と言って持ち帰ってもらったことがあります。そういう人は広報で年に一回位ゴミの出し方なんかを知らせても直らないんです。だから、これでもかと思う位何回も知らせないとだめなんですね。

▼ ゴミ収集前の状況



▲ 収集が済んでも……

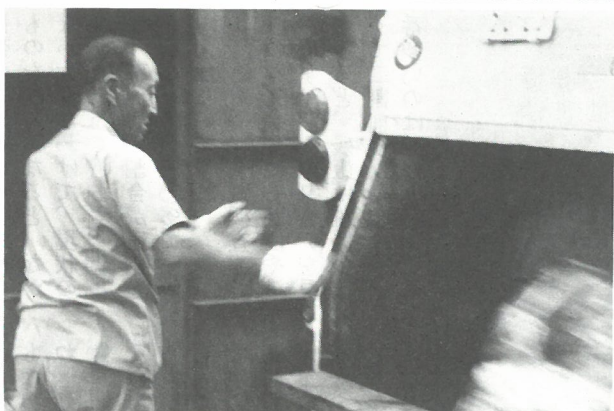
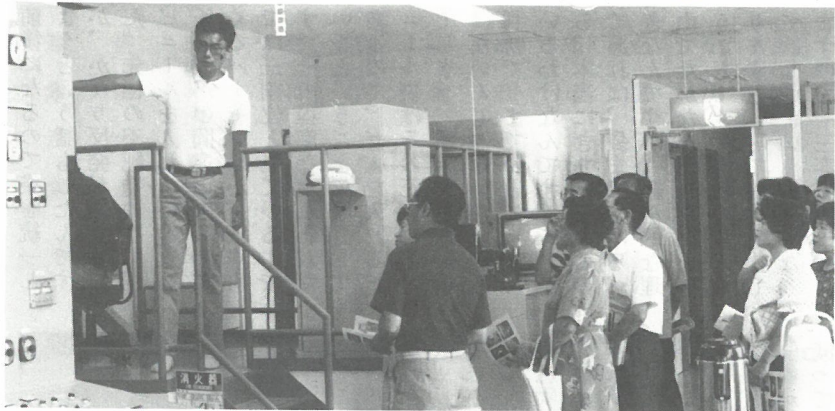
G 私のところ（中町）では広報の外に粗大ゴミの収集日が近くなったら回収板を回しています。
B ゴミの集め方もあるんじゃないでしょうか。北町では字でも粗大ゴミを

G 広報に出しても全部の人が見ればいいですけどね。

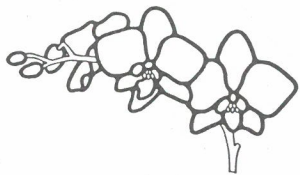


粗大ゴミは 年二回

今は回収板を回しても見ない人、配布物を取らない人などいますから。
K 粗大ゴミに関しては広報から収集日までに日数があるのでもよく忘れ



集めるんです。これは年二回町で行なっている外にです。北町は国道が多いのでテレビや冷蔵庫等を置いて行かれても困るんです。それで字でもってどこに誰は何を捨てるか調査をするんです。そして何月何日に集めますと通知をしてその日にその家に行って車に積んでやっているんです。ですから結構量は集まりますしダンボールや新聞紙は少しですがお金にもなります。字委員が総動員でやっているんです。だからいろんな方法を考えればもっとうまくやって行けるんじゃないかと思うのですがね。D その時の車はどこを使うのですか。H 町役場のです。字でそういう行事を行なうのなら応援してくれませんか。それでほしい日曜日にやります。G 日曜日でも役場の方で協力してくれるんですか。H そうです。どうしても運転手がいなくて字で捜しますけど、車は借りられます。G 北町は裏通りがないですからね。そういう風に地区に合った方法を考えるのは必要だと思いますね。

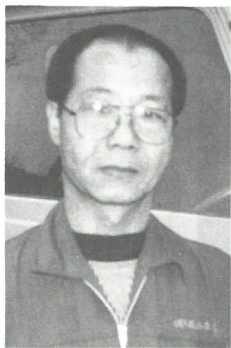


ご紹介します・ゴミを集めて下さってる方々



柳沼正明さん

昭和十九年生まれ。血液型O型
荒町、北町、新町と大町四ツ角から西側の収集を担当。収集業者では最古参の十年の経験を持つ。
この仕事を始めた頃はまだ普通のダンブカーで収集していた「ゴミは燃える物、燃えない物がゴチャ混ぜに出ていて、車に積み積その汚水で服が濡れた」との事。
今はパッカーと呼ばれるゴミ収集専用車で作業して「昔のように汚れなくなった」と笑う。
時々子供たちが「汚ない」と顔をそむけて行くそうだが、そういう時は「自分の家からも出されていること。きちんと袋に入れないから散らかってしまふことなど説明してやります」と、その目が細くなる。
「ゴメンナサイ」と言える子供は多いそうだ。ひと安心。



滝本尽意さん

昭和十七年生まれ。血液型A型
中町、八幡町と大町四ツ角から東側の収集を担当。経験は十年弱。ゴミの処理を専門とする滝本産業の社長として、後ほど紹介する熊田さん、千葉さんと三人で収集している。
「車の渋滞で、逆ルートで収集すると、あわててゴミを持ってくる人が結構います。『朝八時三十分』を守ってほしいですね。」とのこと。
最近、紙くずや雑誌が多くなってきたそうだ。「円高の影響です。」とキッパリ。その筋に詳しい人である。



熊田新一さん

大正十三年生まれ。血液型AB型
滝本産業の従業員としてまだ一年目である。
ゴミ収集を初めてした印象は「仕事となると汚なく感じなかった。」そうだ。
しかし、ゴミに困る時もある。「大袋に入れてドカッと置いて行く人。車の窓からゴミをほうり投げ、道路に転がっても知らん顔の人を見かけます。」
やさしい目だが、口調は厳しくなる。



千葉勝夫さん

昭和十三年生まれ。血液型O型。
熊田さんと同じ一年生である。
「汚水が水鉄砲のように弾けたり、カボチャ、小豆が生のまま捨ててあった」と驚く。
「夢中で収集した。」一年目である。

以上の方たちですが、彼ら四人が異口同音に願うのは、
「分別の徹底」だそうだ。厳しい作業環境ではあるが分別さえキチンとしていればかなり改善される。
それと、「ゴミ収集車にゴミを投げ込むのはやめてほ

三春町 清掃センターより

ゴミ処理につきましては常日頃、格別のご協力を頂き感謝申し上げます。
住み良いまちづくりの基

本は、まず清潔な生活環境をつくることと第一にあげられます。日々、排出されるゴミを衛生的に処理することは、地方自治体として最も重要な仕事であります。

昨年の三月に近代的な設備を持った清掃センターが完成いたしました。町のゴミ処理体制は充実したといえ、この清掃施設を維持管理する費用は軽視できないものであり、今後は、最少の費用で最大の効果があるような管理を心がけていく所存であります。

今後の課題として、資源の乏しい我が国にとって、家庭から排出されるゴミの中には十分資源として活用できる物がたくさんあります。町民の皆さんが大切な資源として有効利用を考え、ゴミの減量化を図っていくべきではないかと思っております。

また、公害を出さないためにも、可燃物と不燃物の分別と有害物を混入させないようご協力をお願い致します。

今後とも清掃行政により一層のご指導と、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

編集室

今回のゴミの特集にあたりましては、環境特別委員会の委員長さんをはじめ、委員の方々には大変ご協力をいただきました。ありがとうございました。

ゴミの出し方については、まだまだ問題があるようです。聞くとところによると、ゴミ袋に出した人の住所と名前を書いたり、名前を書いたシールを張ったりして出すようにしている市町村もいくつかあるそうです。そして出し方の悪い物は引き取ってもらおうそうです。かなり成果はあがっているようですが、やはり投げ捨ててい

られるゴミ等はどのようにならないようです。あとは、ゴミを出す皆さんの良心の問題ではないかと思っております。

何年前までは、八百屋、魚屋、その他の店屋で買い物しても紙袋や新聞紙などに包んだだけ、或いは買

いたように思います。現在は物資も豊富になりましたし、衛生面も考えてか、二重、三重に包装されております。ますますゴミが出やすい状況になってきていると思

います。ゴミについては今後ますます考えていかなくてはならないことだと思います。(伊藤 朗)

コミュニティだより
「三春わが街」第六号
発行日 昭和62年2月15日
発行 三春まちづくり協会
事務局 三春町商工会内
編集 三春まちづくり協会
調査広報特別委員会
事務局 三春町公民館内
TEL (六二) 三三八三七

